

総合工学委員会分科会の設置について

分科会等名：未来社会と応用物理分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	総合工学委員会
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	<p>本分科会では、社会の複雑な問題に対応するために必要となる応用物理学分野の中長期的な展望を検討し、具体的かつ戦略的アクションを展開する。我が国の中核技術である応用物理学の力を結集し、エネルギー、環境、医療など多岐にわたる社会課題に対して物理学のアプローチを追求する。特に、次世代人材育成に注力し、高度なスキルを備えた研究者や技術者を育成するために、教育プログラムの改善と産学連携の拡大を進める。さらに国際競争力の向上を図り、他国との協力を深めながら、国際的な研究ネットワークを構築する。国内外の関連他学会との緊密な連携を通じて、学際的なアプローチで社会問題に取り組み、異なる専門分野からの知識と経験を結集し、当該分野のあるべき姿を指し示す。これにより、包括的で効果的な研究成果を生み出すエコシステムを構築する。</p> <p>本分科会の活動は、日本学術会議総合工学委員会の研究活動戦略に貢献し、持続可能な未来に向けた技術的イノベーションを促進するとともに国際的なリーダーシップを発揮する。</p>
4	審議事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 応用物理学分野の中長期的ビジョンの策定と実行</li> <li>2. 応用物理学分野を担う次世代人材育成</li> <li>3. 応用物理学分野研究の活性化促進、特に国際競争力強化</li> <li>4. 関連学協会等との連携活動のあり方検討と具体的連携に係る審議に関すること</li> </ol>
5	設置期間	令和6年1月25日～令和8年9月30日

6	備考	<p>第 25 期の活動として、今後の意思の表出に向け、以下の 2 件の公開シンポジウムを実施した。これらは世界を巻き込んだコロナ禍やカーボンニュートラルなど、社会に影響が大きい 2 つの課題について、応用物理分野の役割等について検討を進め、公開シンポジウム等を通じて学協会や社会との対話を図ったものである。</p> <p>公開シンポジウム「新型コロナウイルス禍に学ぶ応用物理：未来社会に向けて」（令和 3 年 3 月 17 日開催）</p> <p>公開シンポジウム「グリーントランスフォーメーションに挑む応用物理：持続可能な未来社会に向けて」（令和 5 年 3 月 15 日開催）</p>
---	----	---